京都市
緑のボランティアセンター ニュースレター

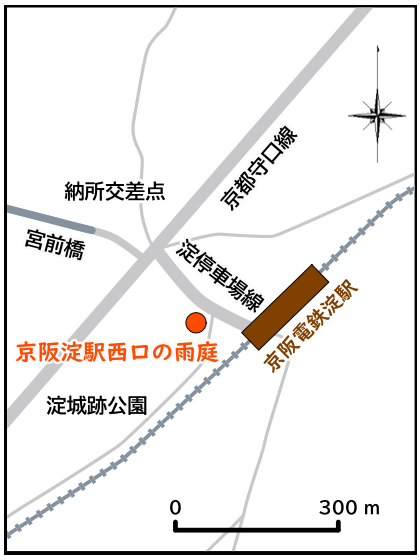
令和7(2025)年 9月号

京都市緑のボランティアセンターより、緑のボランティア活動や地域での活動の
御参考としていただくため、市内各所の活動実例や緑に関する情報を御紹介します。

令和6年度に完成した雨庭の御紹介

京阪淀駅西口(伏見区)の雨庭

十条烏丸交差点(南区)の雨庭



京都市では、京都の庭園文化の技術を活かした緑の空間整備として、平成29年度から「雨庭(あめにわ)」の整備を進めています。「雨庭」には、修景的な効果に加えて、近年多発するゲリラ豪雨に対しての防災機能もあります。

このページで御紹介しているのは令和6年度に整備が完了した、京阪淀駅西口(伏見区)と十条烏丸交差点(南区)の雨庭です。次ページで、京都市による雨庭整備事業を御紹介します。

京都市の雨庭整備事業の御紹介

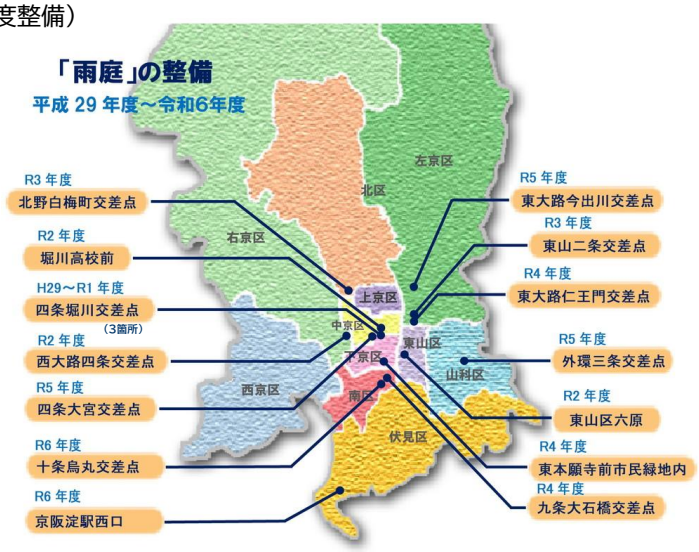
▲京都市内の雨庭の例 … **左** 東山二条交差点の雨庭（令和3年度整備）
右 九条大石橋交差点の雨庭（令和4年度整備）

京都市内の街中に整備された日本庭園のような空間、これらは雨庭といい、防災機能と美しさを兼ね備えた植栽空間です。京都市では、このような雨庭の整備事業に平成29年から取り組んでおり、約7年間で16カ所の雨庭を整備しました。

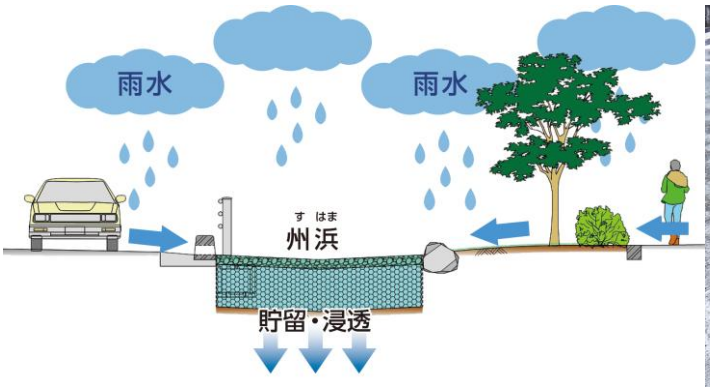
近年多発する集中豪雨により、下水道の処理能力を超えて発生する道路冠水等の水害が問題となっています。雨庭は直接雨庭内に降った雨だけでなく、路上に降った雨水も雨庭に取り込み、一時的に溜めることで下水道への流入を減らし、水害を軽減させる効果が期待されます。

さらに自然環境が有する多様な機能を活用して持続可能で魅力あるまちづくりを進める「グリーンインフラ」という整備手法の一つとしても雨庭は注目されています。

京都には、古くから社寺などで美しい庭園が造られてきました。これらの庭園の中には、敷き詰めた小石などで水の流れを表し、普段は水が無いものの、雨が降ると庭園内に雨水を一時的に貯留する機能を持っているものがあります。京都市では、そのような庭園文化の継承の中で培われた高い造園技術力を生かし、道路上などの公共用地を中心に雨庭の整備を進めています。



詳しい内容は、こちらを御覧ください
【京都市情報館「雨庭とは」】



▲雨庭は雨水を「集水」「貯留」「浸透」させる機能を持っています。雨水を地中に浸透させやすくするため、砂利などを敷き詰めた「州浜（すはま）」を設けています。

▲道路の縁石の一部を「穴あき」のブロックに据え替えることで、歩道上や直接雨庭内に降った雨水だけでなく、車道上に降った雨水も雨庭の中に取り込みます。

雨庭のお手入れをしていただけるボランティアさん募集中！！

京都市では、街路樹とその周辺部の美化や緑化を行っていただく「京都市街路樹サポーター制度」を運用していますが、雨庭のお手入れも周辺や地域にお住まいの皆さまに、御協力いただいています。身体を動かしながら、皆さまに愛される美しい雨庭づくりに取り組んでみませんか。皆さまの御協力をお待ちしております。

詳しい内容や手続き等については、こちらを御覧ください
【京都市街路樹サポーター制度】

お問い合わせ先
京都市建設局 各土木みどり事務所 または、
京都市建設局 みどり政策推進室（075-222-4114）

公園愛護協力会の活動紹介　船岡山公園愛護協力会（北区）

▲手入れに取り組む花壇にて（6月上旬）

船岡山公園は、昭和43年に国の史跡に指定された船岡山（標高約112m）にあります。建勲神社に隣接した西北部一帯が公園となっており、市民の憩いの場になっています。

船岡山公園愛護協力会は、公園内にあるラジオ塔を使って、毎朝ラジオ体操を行っている「船岡山ラジオ体操クラブ」のメンバーでもある有志10人が集まり活動されています。主な活動は、1ヶ月に一度ほどの頻度で行っている公園内の清掃と日々行っている園内にある花壇の手入れです。

花壇づくりは、公園内の活用されていなかった花壇に花を植えて公園利用者に楽しんでもらいたいという思いから始められたそうです。

花壇の手入れは、午前6時半から始まるラジオ体操の前後に15分ずつ、毎日欠かさず行っておられます。土づくりにもこだわり、京都精華大学の学生やシルバー人材センターの方々との協力で園内の落ち葉だめで作った堆肥を使っています。

花壇づくりの呼びかけをした橋本さんは、「花壇づくりに取り組み始めて2年目になりました。愛護協力会の活動はゆるやかなつながりで、園芸を通じたコミュニケーションの場になっています。継続は力なり。少しは健康づくりにも役立っているかな」とお話されています。

▲水やりの様子

▲花壇に植える植物は、各自で持ち寄るなどして調達されています。

メンバーの皆様に活動参加のきっかけや思いをお話いただきました

飯田さん　船岡山公園でのラジオ体操や愛護協力会の活動を通じて、初めは顔も名前も知らなかった方々とつながりができました。

梅田さん　皆さんが一生懸命取り組まれているのを見て、私も参加し始めました。

髙田さん　橋本さんが花を植えると言ったことが参加のきっかけです。

竹中さん　退職後に友達から活動の話を聞き、自身の健康も意識して参加しています。

服部さん　花壇作りに取り組まれると聞いて、水やりだけでも頑張ろうと始めました。皆で活動するのは楽しいですね。

細川さん　健康のため毎日通っています。

▲船岡山公園のラジオ塔

▲花壇に設置されている草花のイラストが描かれた立札は、地元の木材店やカフェのスタッフの協力を得て制作されました。

京都市からのお知らせ

10月は「都市緑化月間」です！

毎年10月は「都市緑化月間」と定められており、「ひろげよう　育てよう　みどりの都市」をテーマに全国各地で緑に関する様々な行事が行われています。

京都市でも、本市が取り組む緑化事業の紹介や市内各地で保全されている京都市産野生種フジバカマの展示を市庁舎にて実施を予定しています。

期間中、御来庁の際はぜひお立ち寄りください。

【場所】京都市役所　分庁舎　1階　ロビー

【期間】10月21日(火)～10月31日(金)
（午前8時45分～午後5時30分　最終日は午後3時まで）

※展示内容は変更になる場合があります

▲令和6年度の展示風景

街路樹等への水やりの御協力のお礼

暑い今夏も、街路樹や御池通スポンサー花壇の水やりに御協力いただきまして、誠にありがとうございました。引き続き、街路樹及び御池通スポンサー花壇の維持管理に御協力いただきますよう、お願いいたします。

コラム　フジバカマとその仲間たち

■フジバカマには「野生種」と「栽培型」の2種類があり、別種と考えられています

▲フジバカマ(野生種)
湿地や川岸に自生し、花は白～薄紫色。背丈は1～2mになります。葉は3つに裂けることが多い。乾燥させた葉には芳香があります。京都府 絶滅寸前種。

▲フジバカマ(栽培型)
流通し、庭や花壇に植えられるタイプです。野生種より小型で葉の切れ込みが深く、開花は1ヶ月ほど遅れます。様々な品種がありますが、花色は濃い紫が多い。

秋の七草の一つ、フジバカマは野生で見られる場所が少なく、京都府絶滅寸前種に指定されていますが、野山でフジバカマに似た花をみかけることがあります。今回はフジバカマの仲間(キク科ヒヨドリバナ属)を御紹介します。

ヒヨドリバナ▶
野山に生育し山道で見かけます。花は真っ白が多い。フジバカマとは違い、葉は裂けない。

▲サワヒヨドリ
湿った場所に生えることが多い。花は白～薄紫色。他種よりも葉が細くなります。

ヨツバヒヨドリ▲　高地に生えることが多い。茎の同じ部分から3、4枚の葉が生える(輪生といいます)のが特徴です。

前号の「京都市緑のボランティアセンターニュースレター」誤記載のお詫びと訂正

令和7年6月号に誤記載がありました。お詫びして、下記のとおり訂正いたします。

○3ページ目　「■街路樹サポーター　小倉町緑の会」以下

【誤】吉村建設株式会社 →【正】吉村建設工業株式会社

お気軽に御相談ください

京都市緑のボランティアセンター
電話：075－352－2535(梅小路公園内専用回線)
場所：梅小路公園緑の館2階ロビー(京都市下京区観喜寺町56-3)
時間：午前9時～午後5時まで　月曜日を除く毎日(年末年始12月28日～1月4日休み)